

第23回学校水泳研究会

事故事例に見る 水泳授業の落とし穴

2025年6月7日
鳴門教育大学 松井 敦典

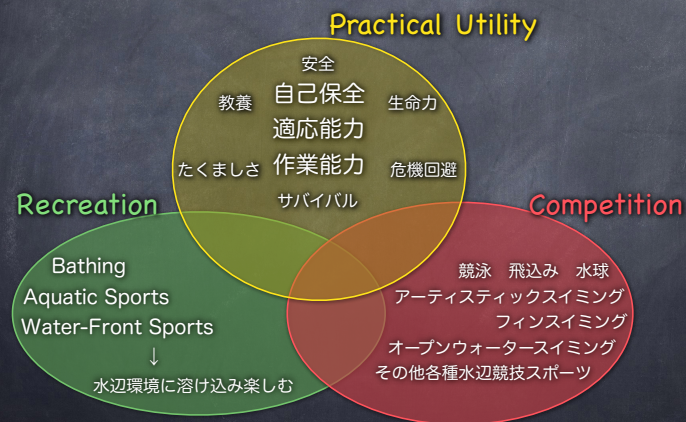
1

Contents

- 学校水泳の役割
- 事故事例にみる授業中の安全管理
- 水泳学習のリスクを生み出す要因
- 水泳授業の落とし穴
- 事故事例にみる水泳指導の落とし穴
- 安全水泳の実現に向けて

2

学校水泳がカバーすべき社会的役割



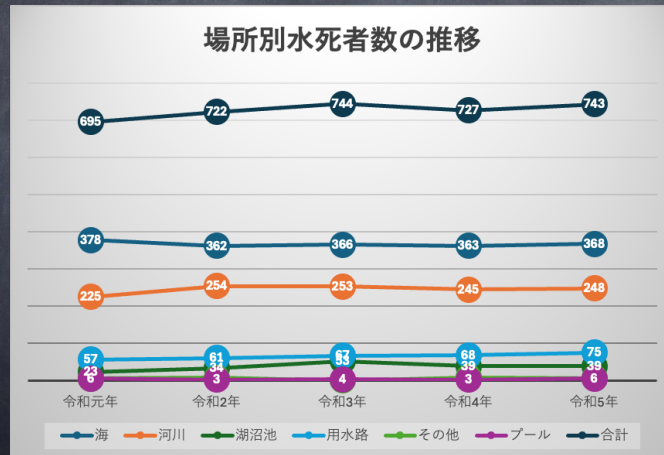
3

学校水泳の持つ2つの役割

- 教科「体育」の内容としての水泳
 - ✓ 運動種目のひとつ
 - ✓ 水泳の特性に触れ、適応力を身につける
 - ✓ 運動の行い方、楽しさ、おもしろさを知る
 - ✓ 豊かなスポーツライフの実現につなげる
- 安全教育の内容としての水泳
 - ✓ 自己保全能力の獲得（危機回避・安全確保）
 - ✓ 安全な社会生活に欠かせない人としての基本

4

水泳プールでの溺死は多いのか？



令和5年における水難の概況等（警察庁生活安全局生活安全企画課）より作図

5

安全な水泳授業

授業中のリスク管理

- ・危険な経験をさせない
- ・事故を起こさない



学習効果の確保

組織：一般的（抽象的）注意義務

指導者：安全確保（具体的）注意義務

学習者：水泳の心得の遵守

6

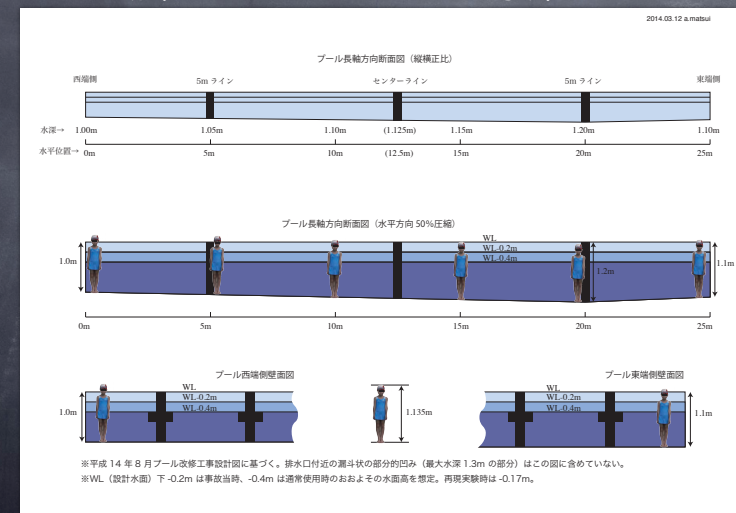
事故事例1

- ・平成24年7月30日午後1時45分頃
- ・教員3人の「夏休みの水泳指導」中の事故
- ・小学校1年生女兒（身長113.5cm，体重21.7kg）
- ・68名（1,2,3年生混在）の自由遊泳中、うつ伏せて浮かんでいるところを教員により発見される。
- ・CPRとAEDを施すも、喉が吐物で詰まり、除細動も不要と解析。胸骨圧迫を続けて救急隊に引き継ぐ。
- ・救急病院でECMO（補助肺）適用も翌日死亡。

7

活動中のリスク

水深



8

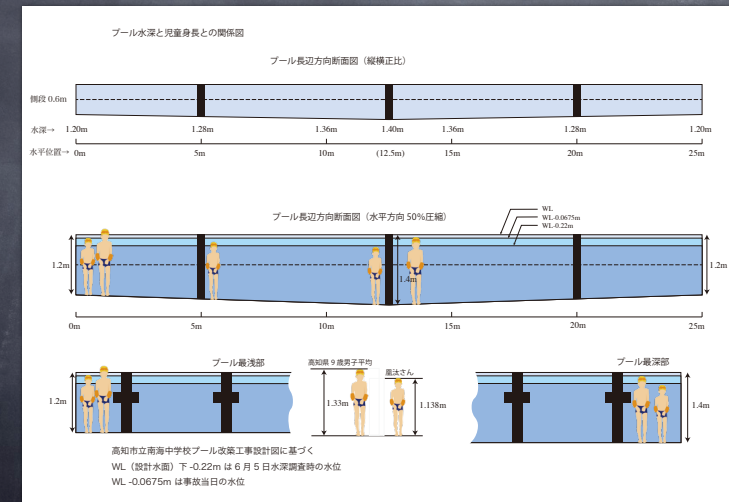
事故事例2

- ・ 令和6年7月5日午後1時45分頃
- ・ 小学校4年生児童（身長113.8cm）の水泳授業中の事故
- ・ プール濾過装置の故障により中学校プール（水深120-140cm）で実施
- ・ 活動中、水底に沈んでいる児童を近くにいた児童が発見、プールサイドに上げ、教員を呼ぶ。
- ・ CPRとAEDを施す。除細動は不要と解析。胸骨圧迫を続けて救急隊に引き継ぐ。
- ・ 救急隊により心拍は一時回復するも当日夜死亡。

9

活動中のリスク

水深



10

学習環境におけるリスク要因

気象条件

気温・水温・日射・風雨・落雷等

水深

水深の分布・小プールの有無・プールフロアの有無

水質

濾過装置・消毒装置・新規補給水

11

水泳学習に適切な水深とは

プールの設計水深

- ・ 幼児用 0.3～0.8m
- ・ 小学校 0.8～1.1m
- ・ 中学校 0.8～1.4m
- ・ 高・大 1.3～1.8m

水泳プールの建設と管理の手びき（1966文部省）

12

適切な水深の提供

- 低学年用小プールの設置・活用
- プール内の場所と水深の関係付け
- 水深の変わらない移動方向の活用
- プールフロアの導入・活用
- × 水を抜いて水面を下げる

13

プールは基本的に満水で運用

→ 従って水位は管理項目に挙げられていない

- ・ オーバーフローにより水面の浮遊物を溢水とともに排出し除去する
- ・ 新規水を補給し続けることによりろ過装置では十分に浄化されずにプール水に蓄積する溶解物質を希釈する



良好な水質を維持

新規水と循環水の割合に注意（厚労省）
5～10%/day（学校保健会）
10～20%/day（愛知県）

14

適切な水深のためには

- ・ プールフロアの導入・活用
- ・ プール底の傾斜を考慮し、一定の水深エリアに限定した学習活動を行う



プールを短辺方向に使う（水深が一定）

15

学習方法におけるリスク要因

指導形態

一斉指導

グループ別指導（同質・課題別・能力別）

} ペア学習
バディシステム

指導者数

指導者あたりの学習者数

監視専任の有無

泳ぎの方向

長辺方向・短辺方向・レーンロープの有無・コーナーの活用

16

学習内容におけるリスク要因

学習課題の設定

課題に取り組むことの目的・ねらいの明確化

- ④ 系統性
- ④ 適時性
- ④ 妥当性

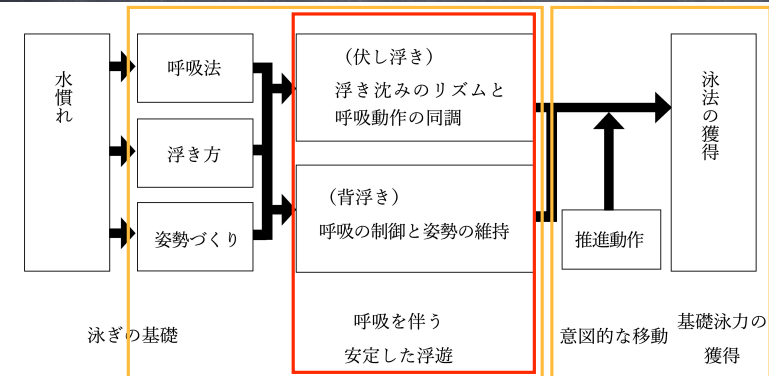
17

泳ぎの技術要素と指導の順序性・系統性

松井(2014)

学校プールは立てるので、溺れない能力が身についていなくても泳ぎに向かってしまう

溺れない 安全確保につながる 泳ぐ



18

我が国の学校水泳の特徴

- ④ 立つことのできる水深での学習
 - + 安全性の確保 ← 溺れるリスクの軽減
 - 足をつかないでいられる能力の未習熟 ← 泳げない?
- ④ 泳法獲得の偏重
 - + 競泳能力の獲得
 - 水泳の基本の未習熟
- ④ 授業担当教員が指導と安全管理を兼任する
 - ・ 技術指導より安全確保が優先 しかしどちらも大事
 - ・ 水泳指導の専門性
 - ・ より安全性を確保するためには指導者のほかに監視専任を要する

日本の学校水泳はガラパゴスか？

19

プール授業の安全管理

授業：授業担当教員が安全確保注意義務を担保しつつ学習指導を展開する

バディ・システムを活用し、学習者同士が監視し合う

監視員を配置（空き教員, PTA, アルバイト）

自治体によっては陸上監視1名配備を義務化

教員の多忙化に拍車の恐れも

20

水泳授業における「バディ」の重要性

- ✓ 人員点呼を素早く行う
- ✓ お互いの安全や健康状態を観察し合う
- ✓ お互いの運動の様子を観察し、その成果を確かめ合ったり欠点を修正しあったりして学習効果を高める
- ✓ 助け合ったり励ましあったりして人間関係を深める

学習者同士
が監視者

21

水泳授業の落とし穴

・教員が指導と安全管理を兼ねる

→学習者が立つことのできる水深での指導

- 安心して学習に取り組める
- × 足をつかずにいられる努力を怠りやすい
- × 本当は泳げないということを知らない

22

水泳授業の落とし穴

水泳の基礎（呼吸法・浮き沈み・姿勢制御）スキル学習が不十分なまま泳法学習にすすみがち

- ・遊んでばかりで泳がせない教師が責められる
- ・息継ぎが不十分なまま泳いで移動することを要求する
- ・全力で頑張ることを強調し、リラックスが不十分
 - × 伏せ面ばた足 × 伏せ面クロール

23

水泳授業の落とし穴

安心・安全な学習として楽しく実施できているか

- おもしろい・心地よい・楽しい・うれしい
- × つまらない・危ない・嫌な・つらい

24

水泳授業の落とし穴

安全管理は学習内容

(教科の目標) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。

(水泳系の内容) 安全に行うための心得については、必ず取り上げること

→ 水泳の心得、バディシステムの理解

25

水泳授業の落とし穴

- ・学校水泳経験者であっても、水場のリスクや自身の身の程（水泳能力）に関する理解が十分でない
- ・自身の能力と水場の状況を見比べての判断が困難

26

京都・賀茂川に飛び込んだ15歳の男子高校生が流され死亡... 水深1～2m、友人4人と川遊び中

2024/07/17 22:19

📄 保存して後で読む



17日午後4時頃、京都市北区上賀茂中嶋河原町の賀茂川で、「友人が川に飛び込んで流れ、姿が見えなくなった」と110番があった。警察からの連絡で駆けつけた救急隊員らが捜索したところ、飛び込んだとみられる地点から約300メートル下流で、左京区の高校1年の男子生徒（15）を発見。男子生徒は救助された後、意識不明の重体で病院に搬送されたが、間もなく死亡が確認された。



京都府警察本部

北署によると、男子生徒は当時、友人4人と遊んでおり、えん堤から数メートル下の川に飛び込んだ後に流されたとみられる。飛び込んだ地点の川の水深は1～2メートル程度だったという。同署は経緯を調べている。

現場は叡山電鉄二軒茶屋駅から西に約2キロで、周辺に住宅街や大学のグラウンドなどがある地域。

27

人づくりまちづくり海外派遣事業の 水難事故発生報告について

■事故発生報告と事業概要

大津町が主催する姉妹都市（米国ヘイスティングズ市）との国際交流事業『令和6年度人づくりまちづくり海外派遣事業』において、水難事故が発生しました。

事業目的：国際的視野を持つまちづくりのリーダー育成を目的とする海外派遣事業
実施予定期間：7月26日（金）～8月6日（火）の12日間
中高生10人・随員職員1人・通訳1人の総勢12人が参加

■事故発生経過

発生日：滞在スケジュール6日目（現地7月31日）

発生日当日の午後は、市内のウォーターパークで現地のレジャー施設を体験するとともに、高校生を含む現地の人たちと交流を深めていたところ、参加者の一人がプールで溺れていたところを現地のライフガードが発見し救出。救命措置が行われた後、病院に救急搬送されて治療が続けられましたが、8月4日に息を引き取られました。

■今後の取り組み

- ・ご遺族、参加生徒や保護者、関係者への支援実施（スクールカウンセラー対応等）
- ・今回の事故経緯の検証と、今後の対策の徹底

28



FIVE STEPS OF WATER COMPETENCY

1. Step or jump into water over your head.
2. Float or tread water for one minute.
3. Turn around in a full circle and find a exit.
4. Swim 25 yards to the exit without stopping.
5. Exit the water without using steps or a ladder.

33



検索 検索語を入力して下さい。

文字サイズ変更 標準 大 English サイトマップ

ホーム スポーツ庁について お知らせ 政策 法令 刊行物

トップ > 政策 > 学校体育・運動部活動 > 小学校体育（運動領域）指導の手引 ～楽しく身に付く体育の授業～

小学校体育（運動領域）指導の手引 ～楽しく身に付く体育の授業～

本手引は、小学校体育（運動領域）の授業における、教師向けの指導資料です。
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編に添った内容をもちに、具体的に授業づくりのポイントをつかむことができるような資料を作成しました。
内容は、単元のページと資料のページで構成し、運動領域の全ての領域を取り扱っています。
学校の児童や、各校の年間指導計画等に応じて、適宜、修正を加えながらご活用ください。
また、「低学年：器械・器具を使っている運動遊び」「中学年：器械運動」「高学年：器械運動」の資料内の技名をクリックまたはQRコードを読み込むと動画を見ることができますので、授業づくりの参考としてご活用ください。（すべての技等の動画はありません。）
※他の領域については随時更新していきます。

令和5年6月5日

楽しく身に付く体育の授業（PDF:545KB）

手引の見方（PDF:1,064KB）

領域別一覧

	領域				
低学年	体つくりの運動遊び	器械・器具を使っている運動遊び	走・跳の運動遊び	水遊び	ゲーム
中学年	体つくり運動	器械運動	走・跳の運動	水泳運動	ゲーム
高学年	体つくり運動	器械運動	陸上運動	水泳運動	ボール運動

学校体育・運動部活動

武道・ダンス必修化

学習指導要領

指導参考資料集

体育活動中の事故防止

家庭での体育、保健体育の学習コンテンツ参考例

34

小学校第1，第2学年

もぐる・浮く運動遊びの行い方の例

○くらげ浮き



○伏し浮き



○大の字浮き



○バブリング



・水中で口や鼻から少しずつ息を吐く。

○水中じゃんけん



・パディで行う。慣れてきたら連続して数回行う。

35

小学校第1，第2学年

もぐる・浮く運動遊びの行い方の例

○いろいろな文字を浮いて表す

・「一」、「人」、「大」



○いろいろな文字をもぐって表す

・「ん」、「し」

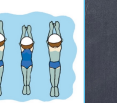
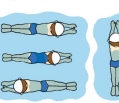
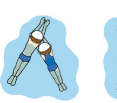


○友達と一緒にいろいろな文字を浮いて表す

・「犬」、「太」

・「八」、「人」

・「三」、「川」



○補助員や友達の手助けで浮いて進む

・伏し浮きで友達につかまり、引いてもらう。



・背浮きで友達に支えてもらい、連んでもらう。



・補助員につかまり伏し浮きや背浮きをして友達に引いてもらう。



36

小学校第3, 第4学年

水慣れの運動の例

○お尻でプールの底にタッチ



○くらげ浮き, 伏し浮き, 大の字浮き



○連続水中じゃんけん
(動きと呼吸のリズムを合わせる)



○プールの底に座る (息を吐き切る)

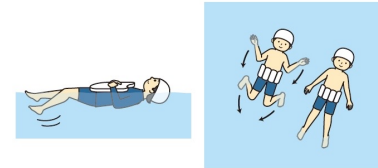


37

小学校第3, 第4学年

補助具を用いた初歩的な泳ぎの例

○補助具を用いた背浮きでの泳ぎ



・手や足はゆっくりと動かしましょう。
・呼吸をしながら進みましょう。



38

小学校第3, 第4学年

浮く運動の行い方の例

○背浮き



○ビート板を使った背浮き



○だるま浮き



・大きく息を吸ってから始めましょう。
・体の力を抜いて, 呼吸を整えたり息を止めてみたりしましょう。



変身浮きの行い方の例

○背浮き → 右手を伸ばす → 右肩を下げながら横に回転 → 左手も頭上に伸ばす → 伏し浮き



○背浮き → おへそを見るように体を丸める → 膝を抱えて縦に回転 → だるま浮き → 伏し浮き



・呼吸を調整 (息を止めたり少しずつ吐いたり) しながら, できるだけゆっくり動くようにしましょう。
・手や足の動きよりも, 肩や首の使い方を工夫しましょう。



39

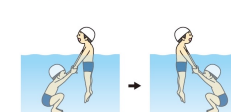
小学校第3, 第4学年

連続したボビングの行い方の例

○ボビング



○二人で交互に



○四人で順番に



慣れてきたら, 水の中にいる時間を長くするようにしましょう。
(水の中: 水面上 = 3 : 1 程度を目安とする)



ボビングをしながらジャンプをして移動をする運動の行い方の例

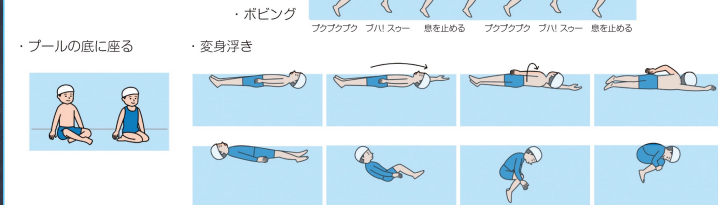


もぐる 1, 2, 3 (ブクブク) 進む方へジャンプ 4 (フハ! スー) 再びもぐる 5, 6, 7, 8 (息を止める) 体が浮いてきたら 1, 2, 3 (ブクブク) 進む方へジャンプ 4 (フハ! スー)

40

小学校第5, 第6学年

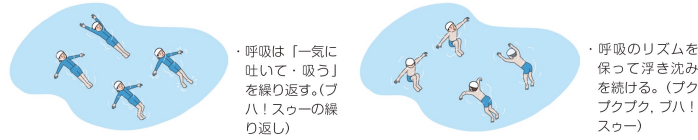
水慣れの運動の例 ○もぐる・浮く運動



安全確保につながる運動の記録への挑戦の仕方の例

○背浮きで浮いている時間に挑戦する

○浮き沈みを続ける回数に挑戦する

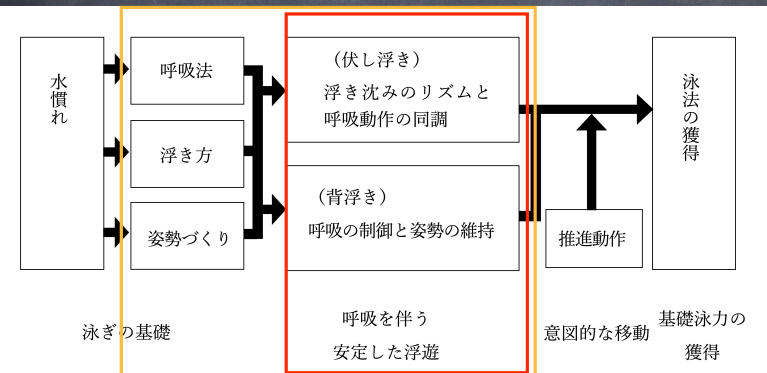


41

泳ぎの技術要素と指導の順序性・系統性

松井(2014)

安全確保につながる運動の要素は泳ぎの基礎の中ですでに例示されている



42

まとめ

- 指導者側の安全で効果的な水泳指導に関する理解と実践力が必要
- 指導者の水泳指導に関する資質向上を促す施策が必要

→ 教員の資質向上

教員養成課程
教員研修

→ 専門性のある指導者の活用

専科教員
外部指導者

43

連絡先 matsui@naruto-u.ac.jp

松井研究室WebPage

<http://spbio.naruto-u.ac.jp/>

学校水泳研究会WebPage

<http://www.naruto-u.ac.jp/~matsui/sss/ssstop.html>



教育の一番札所

国立大学法人
鳴門教育大学

N
SPORTS

44